

陶連合自治会

★活動の概要

第1次地域づくり計画の最終年度として、地域づくりの基本である地区民の交流や地域情報の発信のほか、地区のシンボルづくりに力を注ぎ活動しました。

★交付金額

9,496,000 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	2,479 人
世帯数	1,082 世帯
地域の キャッチフレーズ	美しい心ふれ合う陶

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ ふるさと再発見

募集により陶のマスコットとして、一対の名称「すえっき」とデザインが誕生し、それぞれに“ドッキー”と“スッキー”の名前も決まりました。陶のシンボルとして、地区内外に広めていくために、シールを作成して地区の学校に配るほか、地区外苑の封書等にデザインを印刷しています。さらに、ふれあいまつりの会場で、チェーンソーアーティストの実演による木像も完成しました。今後は、陶マスコット「すえっき」を地域活性化に活用していきます。



■ 地域づくり計画事業



県立大学と協働で、第1次計画の評価、住民座談会(3会場)や住民アンケート(中学生以上約1,700人回答)などを基に、4回の計画検討会で協議して、「第2次陶地区地域づくり計画・福祉活動計画」(平成25～29年度)を策定し、各家庭に配布しました。この計画書により、今後「美しい心ふれ合う陶」の実現に取り組みます。



■ 交通安全、交通マナーアップ事業



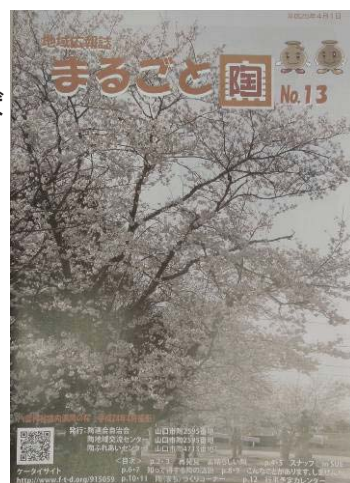
道路の狭い地区のため、春・夏・秋・年末年始の交通安全期間中に、「交通安全マナーアップ in SUE」の幟100本を、地区内全域に掲揚するほか、立哨やマイクによる交通安全の啓発も行っています。また、小中学校の意識を高めるため、ポスターや標語の募集も行っています。

この活動の成果か、地区内で車同士や車と人との笑顔と笑顔の譲り合いによって、地区民のふれあいも深まり地区民の交通事故はほとんどありません。



■ 広報活動事業

今まで、陶連合自治会、陶地域交流センター、陶ふれあいセンターの3機関で、4つの広報誌を発行していましたが、「まるごと陶」として1冊に統合し、地区内の情報が、この1冊で全てわかるように改善しました。3機関の編集担当者のほか、10名の部会員で毎号2回の編集委員会を行い広報誌づくりを進めています。また、行事参加者にコメントや写真等編集に協力を頂き、親しみやすく読みやすいと地区民に喜ばれています。





★活動の概要

「鑄銭司らしさ‘品格’の継承」・「時代の変化に対応できる まちづくり、ひとづくり」を指針として活動しています。

★交付金額

10,307,000 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	2,793人
世帯数	1,363世帯
地域のキャッチフレーズ	「住んでよかった これからも住みたい」鑄銭司

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■「鑄銭司笠踊り伝承保存会」設立

第6回風鎮祭「盆踊り大会」(8月25日・黒山八幡宮)において、地域の組織団体の連携をもって運営する「鑄銭司笠踊り伝承保存会」設立セレモニーとともに除幕式を行いました。

鑄銭司に伝わる貴重な「笠踊り」を伝承していく保存会として鑄銭司地区全体で盛り上げ、小学生を中心に子どもたちに伝えていきます。同時に、銭太鼓バージョンなどの創作・練習も行っています。

・8月25日 設立セレモニーと風鎮祭「盆踊り大会」



設立セレモニーの後に踊られた鑄銭司のみで踊られている「笠踊り」

・2月1日 鑄銭司小学校で「伝承のつどい」開催
小学生4年生から6年生の子どもたちに「伝承のつどい」として、笠踊りの指導を行いました。



■「鑄銭司まちづくり研究会」立ち上げ

「鑄銭司地域の中長期問題に取り組む新しい組織」として、「鑄銭司まちづくり研究会」を立ち上げました。

・7月8日 「鑄銭司まちづくり講演会」の開催
‘鑄銭司を活かす志と演出’のテーマで講演会を開催し、多数の参加を頂きました。

講師 砂田光紀先生(オフィスフィールドノート 取締役)

・鑄銭司まちづくり研究会の開催

第1回 8月4日・第2回 10月26日・第3回 2月23日

第3回の研究会からは、4つの分科会に分かれて今後の活動について話し合われました。

第一分科会…「地域交流センター建て替え・南若川水系河川整備計画」について

第二分科会…「大村益次郎没後150年事業および長沢パーク構想」について

第三分科会…「鑄銭司方式子ども園・鑄銭司ワンストップ構想」について

第四分科会…「農業支援・インフラ整備」について
今後の研究会の活動が、鑄銭司のまちづくりに活かされていきます。



7月8日開催された「鑄銭司まちづくり講演会」講演内容を参考に今後の鑄銭司地区まちづくりの起爆剤にしていきます。

■ 一戸一鉢運動

5ヶ年計画における「絆＝向こう三軒両隣」をキャッチフレーズに諸団体・企業・個人のコミュニティ作りの推進事業として春と秋の2回に「一戸一鉢運動」として花苗などの全戸配布を行いました。

・7月・・・インパチェンス・コリウスの苗、プランター、固形肥料、土、プランター貼り付け用キャラクター入シールを全戸配布しました。

・11月・・・チューリップの球根を全戸配布しました。

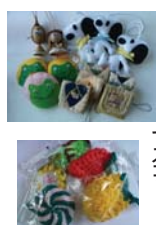


7月の配布風景です。環境部会の役員によって各地区の会館へ配布し、地区世話人さんなどの多くの方々の協力により各家庭へ配布されました。

家庭でもできる地域づくり、地区全体で参加できる運動として定着しています。

■ 交通安全マスコット配布

秋の全国交通安全運動に合わせて、鑄銭司地域企業17社と長沢ガーデン駐車場にて駐車場利用者さんに地区の方々手作りの「交通安全マスコット」を配布し、安全運転を呼びかけました。



配布した手作り
マスコット

■ 「消火器取り扱い講習会」開催

9月30日に、「消火器の取り扱い講習会」を行いました。山口南消防署の方々による消火器の取り扱い説明、訓練用の消火器による実技指導、参加者の皆さんからの質疑応答など丁寧に教えていただきました。同時に、家庭用消火器の販売と期限の切れた消火器の回収も行いました。地区の方々に、火災へのもしもの対応・対策を考える機会を持っていただきました。



■ 芝桜の植え付け

昨年に引き続き2月17日に、鑄銭司郷土館前の斜面に芝桜の植え付けを行うとともに、前回植え付けた部分の補植作業も行いました。

鑄銭司郷土館周辺は、桜とともに地域住民の憩いの場所となってきています。



※今後の活動について※

- 自主防災組織の立ち上げ
 - 防犯灯の整備
 - 鑄銭司まちづくり5ヶ年計画の見直し
 - 笠踊り伝承保存会の支援
 - まちづくり研究会における4分科会の活動
- その他継続事業など、地域の特徴を活かした事業の展開を、各専門部会中心に推進していきたいと考えています。

名田島自治会連合会

★活動の概要

第1次計画の評価委員会・住民座談会・総括委員会・冊子編集委員会を開き「第2次名田島協働・福祉のまちづくり計画」の策定をしました。

★交付金額

7,198,905円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	1,394人
世帯数	515世帯
地域の キャッチフレーズ	住んでよかったと実感 できる名田島

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

(※：評価)

■ 総務部会

- 広報活動
 - ・ 活動報告・地域回覧
 - ※ 情報の共有ができました。
 - ・ 広報紙「田園」を発行(3回)
 - ※「史跡・名勝名田島めぐり」をシリーズとしたことで興味をもって見てもらえました。
 - ・ ホームページの拡充
 - ※名田島農産物のレシピのPRができました。
- 地域イベント補助
 - ※ボランティアの方の絶大な協力を得られ、地区民が一同に集まり世代間交流が持てました。
- 地域づくり計画策定
 - ※第2次地域づくり計画を策定しました。



史跡・名勝めぐり



名田島産大豆加工の豆腐

■ 生涯学習部会

- ふるさと探訪
 - ・ ふるさとめぐりマップ標識看板の設置
 - ※ 関心が高まり、広く名田島を知ってもらえました。
- 児童クラブ開設準備・小学校改築
 - ※H25年4月に開設・改築完了します。
- 子や孫に残したい名田島風景100選募集
 - ※ 現在60点程度が応募されています。
- 小学校改築に伴う運動場の芝生化管理ボランティア募集
 - ※20人程度申し込みがありました。



ふるさとめぐりマップ看板

児童クラブ開設



小学校改築

健康福祉部会

- 世代間交流事業
 - ・ どんど焼き、あるけあるけ行事共催
- 健康講座開催
 - ・ 夏場の健康管理
 - ・ 山口県の温泉

※ 日常交流の少ない世代間の交流や絆が生まれました。



山口県の温泉

夏場の健康管理



防災部会

- 防災訓練の実施(8月26日)
 - ・ 名田島自主防災訓練
 - 情報伝達訓練・避難訓練・避難場所開設訓練
 - 炊き出し訓練・要援護者誘導訓練
- ※交流センターとのタイアップにより、避難所開設訓練を行ったことで、避難者の把握ができました。

- 防災設備の充実



避難訓練

避難所開設訓練



炊き出し訓練

生活環境部会

- 道路、河川、里山の整備、安全対策の推進
 - ・ 地区要望の集約、現地確認、要望書提出、補助金交付
 - ・ フラップゲート設置(1基)
- 美化運動(クリーン作戦)
 - ・ ボランティアによる草刈
 - ・ 市道清掃

※地区民の安全、美観、環境整備に貢献できており、活動を継続していきたいと考えています。



法定外公共物等
整備事業



ボランティアによる草刈り

【今後に向けての地域の思い、取り組み】

「第2次協働・福祉のまちづくり計画」では、『次世代につながる「田園都市」の創造』を基本理念とし、今の子供たちが大人になった時、「自分の子供を名田島の地で育てたい。」と思えるような、自然が豊かで人々に活力のある自立した地域づくりを目指します。

秋穂二島地区連合自治会

★活動の概要

秋穂二島地区では、「HOT 愛を二島」(ほっとあいをふたじま)を理念に掲げ、地域づくりに取り組んでいます。

★交付金額

7,769,559円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	2,575人
世帯数	1,086世帯
地域の キャッチフレーズ	HOT 愛を二島

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 兜山古墳整備事業

兜山古墳は、平成23年度から地域活動の一環として整備事業を行っています。昨年の5月に新聞で紹介され、最近では見学者もあることから秋穂二島地区連合自治会委員を中心に、地域住民の協力により古墳周辺の整備を継続事業として実施しています。山頂からはベンチに座って周防大橋やきららドームを眺められる、癒しのスポットとなっています。



かぶとやま
兜山古墳の整備風景

■ 海拔表示標の設置

近年の防災意識の向上に伴い、私たちの住んでいる場所は海拔でいくらかあるかと興味をもつため、「山口市の海拔表示」を参考に作成しました。各集落公会堂及び人目に付きやすい場所等への取り付けは各集落にお願いしました。海岸近くやゴミステーションに取り付けるなどそれぞれが考えられた場所に取り付けられ、評判もよく効果のある事業となりました。



■ 遊びにおいでよ！『子ども広場』

子育て支援活動のひとつとして、子育てに関する講演会や茶話会、昔の遊びなど親子で楽しめる「子ども広場」を開催、部会に属する8団体の協力によりそれぞれの分野で、企画します。

茶話会のケーキは食推さん・昔の遊びは老人クラブ・小さい子どもは母推さんが担当します。講演会は元二島中学校校長の伊藤美代子さんをお願いし、教職等60年の経験から「気になるあんなこと こんなこと」と題して、子どもを持つ親の心構え等について講演していただきました。今回は「ちよるる」も飛び入り参加。広場実施後、反省会を行い次の取り組み等について意見を出し合い、今後の子育て支援についても話し合いました。



■ HOT 愛を二島コンサート

3回目を迎えた、「HOT ♥コンサート」は演奏者側のスケジュールと地域の行事との調整に苦労しながら皆さんに「生」の演奏を聴いてもらうため、今年は10月13日 二島小学校体育館に120人が来場され、懐かしい歌や誰もが知っている唱歌など、いろいろな分野の曲により子どもから高齢者までが楽しまれ、癒された時間を過ごしました。

地域の多くの皆さんに聴いてもらうため、小さな子どもさん連れには託児も受けられるよう、部会の皆さんのご理解により協力いただいています。



今後に向けての地域の思い、取り組みなど

「HOT 愛を二島」を理念に事業活動を実施する中で、地域づくりの大切さを連合自治会と地域の皆さんが共有し、それぞれが責任を果たせるよう協力しながら、助け合って取り組める活動を展開します。

嘉川自治連合会(嘉川地域づくり協議会)

★活動の概要

嘉川地域では5つの部会を設けて、部会ごとに地域づくりに取り組んでいます。

★交付金額

10,838,217円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	7,002人
世帯数	2,801世帯
地域の キャッチフレーズ	調和のとれた地域の発展と 安心・安全な住みよい嘉川

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 盆踊り

毎年11月に開催される嘉川文化祭での新企画として「白河踊り」を実施しました。当日は100人の参加者があり熱気にあふれ、予定の時間を超える盛り上がりでした。

「白河踊り」はもともと福島県白河地方の踊りで、今から145年前(1868年)の戊辰戦争に参戦した長州の諸隊(農民等の部隊)の兵士が持ち帰ったものといわれています。

嘉川地域では現在4地区で踊られています。文化祭において総踊りを実施したことにより、多くの人に「白河踊り」を知っていただくことができ、今後の継承と活性化に繋がる活動ができました。



■ あいさつ運動の推進

あいさつ運動は小中学校の生徒を対象に交通立哨、見守り活動等の場を活用して実施しています。

今年は、あいさつ運動に対する住民の意識調査のため、関係25団体と39自治会にアンケートを実施しました。

アンケートには活動について活発な意見が多く出され、運動の意義や大切さを認めている人も多くいることがわかりました。

アンケートの結果は、あいさつ運動は絶えず続けることが大切であることを再認識させられるもので、標語ステッカーを増刷し、掲示を継続することにしました。

来年度以降もアンケート結果を基礎資料として活動の活性化に利用していきます。

また、集計結果については広報誌の特集号として全戸に配布することで地域住民に知らせました。



■ 高齢者活動の推進

高齢者の相互の交流を図り健康増進に努めるため、カローリングやペタンク等のスポーツの集いに支援をしました。

また、老人クラブ連合会主催で地域の高齢者を対象に広報紙等により広く呼びかけ、カローリング大会を開催しました。

■ 児童・生徒登下校時の安全確保

児童・生徒の登下校の見守り活動等や危険個所の点検、通学路等の安全確保を支援するため、統一した帽子や、ブルゾンを着用して活動しています。

子ども達のみならず、地域住民にも見守り活動が認知され地区住民や保護者から多くの感謝の声がありました。

現在、見守り活動は老人クラブが多く関わっていますが、今後は各自治会等が主体となって活動に取り組む仕組みづくりを進めて行きたいと思います。



【今後の地域づくりに向けて】

地域の将来展望や課題の把握、活動への参加者(実働部隊)の確保等々に苦慮しており、これらの解決に当たっては、自治会を中心とする協議会の組織の充実や、ボランティア組織(団体)の協力を結集した協働体制づくりが急務であると考えます。

楽しい事業展開中 三二通信

■ 地域産品創出事業

今年も嘉川のお酒「嘉穂の郷」づくりに取り組みました。写真はみんなで仲良く並んで田植えにチャレンジしているところです。



■ 禅定寺山の登山道整備

9月、2月と登山道整備を2回実施しました。

写真は、2月の登山時に山頂で撮影したものです。快晴の気持ちの良い日でした。



■ 遺跡・史跡の顕彰

3年間の活動で史跡の看板と標柱の設置が終了しました。

今後は史跡を巡るガイドブックの作成を考えています。



佐山地区地域づくり協議会

★活動の概要

佐山地区内の各種団体が連携して地域課題を解決するとともに、活動を通じたコミュニティ意識の高揚、地域の活性化に寄与することを目的とした活動を展開しています。

★交付金額

8,777,558 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	2,892 人
世帯数	1,154 世帯
地域の キャッチフレーズ	住みよい佐山の まちづくり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 避難所看板設置事業

周防灘に面した佐山地域では、高潮対策は重要な課題のひとつです。そこで、自主防災会と地域づくり協議会が中心となり、地域内の公共施設や避難場所の公会堂に海拔表示の入った避難看板を設置しました。

地域住民は、地域内の12か所に設置した看板を日々目にすることで、災害時の避難場所を記憶すると同時に、地域内の高低差を三次元的にとらえることができるようになります。



●目に付くデザインが好評です

■ 通学路安全標識設置事業

狭隘な通学路の交通安全対策の要望を自治会から受け、自治会、地域づくり協議会、行政で対応策を検討した結果、独自の交通安全標識が完成しました。

標識の設置に併せて歩道を着色したことで、一層の安全対策を講じることができました。



●無事故はみんなの願いです

■ 国道190号線沿い花壇整備事業

佐山地区の玄関口とも言える国道190号線の植樹帯は、これまで目立った管理がなされていなかったことから、地域づくり協議会が中心となり、新たに花壇づくりを行うボランティア組織を立ち上げました。

現在、約60人のボランティアの登録者があり、連日献身的な管理を行っています。



●立派な花壇が完成しました

登録者の一部は、新たに地域づくり協議会の活動に参加した方で、新しい事業に着手したことにより、地域内での地域づくり協議会の活動が広がりました。

■ 自主防災会組織基盤強化事業

佐山地域では、早くから地域をあげての自主防災活動に取り組んでおり、これまでも佐山地域独自の活動を展開してきました。

平成24年度は、新たに単位自主防災会の中心的役割を担う自主防災リーダーを選任し、リーダーのスキルアップのための研修会を数回に渡り実施し、リーダーとしての役割や、意識の

確認を行い、個々のスキルアップと自主防災会の組織力の底上げを図りました。

また、防災への関心の薄い子ども達の意識の向上を図るため、佐山小学校との連携により、社



●リーダーのスキルアップを図りました

会科の授業の一環として、防災学習を実施し、一定の成果をあげました。

山口大学との連携で実施している防災無線の実験も3年目を迎え、平成24年度は、自治会の協力のもと、タブレット型端末を使用した電子回覧板の実験を行いました。

今後も、ひとりでも多くの地域住民に防災活動を



●子ども達の日も真剣です

自主防災会との連携を図り、佐山地域の自主防災組織をより盤石なものにするため、より一層の組織強化を図ります。

理解いただき、活動に参加いただくために、草の根的な普及活動を展開するとともに、単位自治会の

■ 防犯灯(LED)設置事業

地域内において、防犯灯の設置が必要なものの、自治会境などで設置者が特定できない場所を各自治会長の協力により調査を行い、地域づくり協議会が事業主体となり防犯灯を設置しました。

防犯灯の設置により、地域の防犯対策が進むとともに、地域づくり協議会が中心となり、地域内の共通の課題を地域全体で受け止め、解決する意識が芽生えました。



●地域のことは地域内で解決します

■ サンパーク買物便運行事業

地域内には、食料品や生活用品を扱う店舗が少ないため、地域づくり協議会でタクシーを貸し切り、最寄りの大型店舗まで運行を行う事業を実施しました。

事業実施により、地域内のお年寄りなど、交通弱者の交通手段が確保できたと同時に、買物運行便は、地域内で運行しているコミュニティタクシーと連動していることから、相互の利用促進に繋がる相乗効果をもたらしました。

● 今後の地域づくり協議会の活動について

これまで、佐山地区地域づくり協議会では、地域の声や要望をベースにさまざまな事業を展開してきました。

平成25年度は、平成26年度から5カ年間の地域づくり協議会の活動指針となる「地域づくり計画」を作成しますが、これまでの活動を踏襲しつつ、関係団体等と連携を図り、地域のニーズに応える計画を策定します。



小郡地域

おごおり地域づくり協議会

『ふれあい』『生きがい』『支え合い』で
心豊かに暮らせる地域づくり

★活動の概要

住民の意見を反映させる仕組み作りや住民と行政が協働で地域づくりを行なえる環境を整え、「地域づくり計画」に沿って、地域のニーズや課題解決に取り組みました。

★交付金額

14,641,000円



★地域の情報(地域づくり協議会単位)

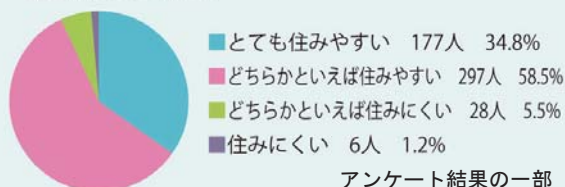
地域人口	24,478人
世帯数	10,698世帯
地域のキャッチフレーズ	みんなが笑顔で暮らせるまち

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地域振興

- ・アンケート調査 ・まち発見(ワークショップ)
- ・ふるさと塾 ・語り部講座 ・ゆるキャラ作成
- ・情報誌発行 ・小中4校 交流の場づくり ほか

住みやすいと思うか

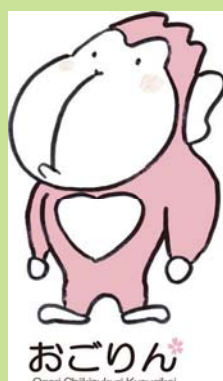


小郡地域内
小中4校で交流会



小郡ふるさと塾

アンケートの結果、小郡地域は住みやすいとの回答が93%にもなりました。



■ 地域福祉

- ・絆にちなんだ標語 ・出前講座 ・異世代交流
- ・あいさつ運動缶バッジ ・福祉活動研修会
- ・子育て支援 ほか



代表的郷土料理「ちしゃなます」「ささげごはん」「鯨の竜田揚げ」など、大人も子ども協力して料理をし、世代間交流が出来ました。

【絆】標語最優秀作品

「ご近所と声かけ合って今日も無事」



笑顔であいさつ運動オリジナル缶バッジ



「地域における福祉活動と課題」と題し、研修会を行い解決のため課題と問題点を共有しました。



■ 環境づくり

- ・清掃活動 ・花いっぱい運動
- ・グリーンカーテン ・ダンボールコンポスト
- ・ごみ不法投棄防止 ・栄山公園整備 ほか



花いっぱい運動「花の育て方講習会」を行い、今後まちを花いっぱいにしていきます。



環境美化ポスター



ダンボールコンポストで生ごみの減量化の啓発

■ 土木工事

- ・法定外公共物等の道路・水路整備事業 計 8 か所



整備工事前

整備工事後

雨が降ると靴が汚れ地区公民館が泥だらけでしたが、雨が降っても大丈夫になりました(^^)

■ 安心安全

- ・駅南土のう用土砂置場 ・防災訓練
- ・交通安全啓発 ・交通安全幟旗
- ・反射材キーホルダー ほか



反射材キーホルダー

防犯・防災について考える為の講習会等を行い、多くの参加者に防災意識の啓発を行いました。



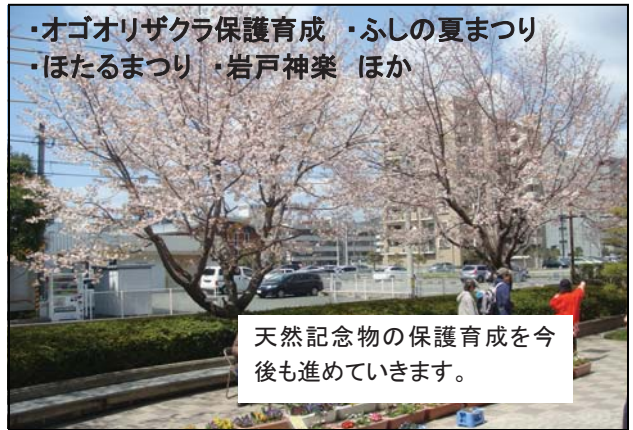
土のう作り講習会



防災訓練

■ 地域個性創出

- ・オゴオリザクラ保護育成 ・ふしの夏まつり
- ・ほたるまつり ・岩戸神楽 ほか



天然記念物の保護育成を今後も進めていきます。

* 今後に向けての地域の思い

協働のまちづくりを進める中、地域づくり協議会の果たす役割が重要視されています。人と人とのつながり・支え合いの大切さを再認識し、更なる地域の一体感が生まれる環境づくりを進めます。

情報の共有化を図り、住民の連帯感を強め、地域全体が活性化するようまちづくりを推進します。



★活動の概要

『たの SEA 秋穂づくり協議会』は、32自治会と42団体で組織し、地域振興、地域福祉、安心安全、環境づくり、地域個性創出の5つの柱で事業展開しています。

★交付金額

13,352,783円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	6,992人
世帯数	2,531世帯
地域のキャッチフレーズ	青い海 愛する秋穂 海老のまち

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 広報活動

毎回、身近な話題を取り上げて、地域の皆さんに愛される情報紙、『みんなの地域情報紙あいお』の発行(月1回)と、ホームページ・ブログ・メール配信などで、活動・旬な情報を発信しています。<http://www.tanosea-aio.jp/> 今後は、ホームページの充実やメール配信の周知をはかっていきたいと思っています。



『みんなの地域情報紙あいお』は、平成24年度山口県公民館報コンクールで優秀賞を受賞しました。

■ 地域活性化のためのイベントの支援

あいお祭りは、実行委員会を組織して11月4日に開催しました。好天に恵まれ、約6000人の来客があり大変盛況でした。来年も、秋穂の特色を活かし、また新しい風も取り入れながら秋穂の活性化を目指したいと思います。同日の夜には、大海漁港周辺で、あいお花火まつりが催され、小雨の中多くの集客がありました。3月30日の菜の花まつりは、天候もよく、たくさんのお客さんが訪れ、満開の菜の花の中で最後までまつりを楽しんで頂けました。

あいお祭り



菜の花まつり

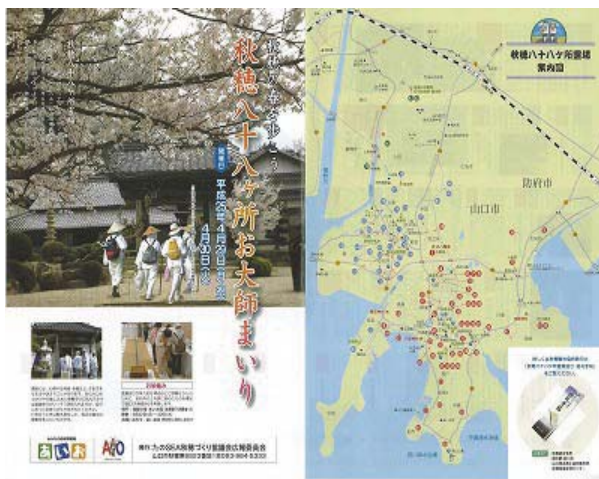


■ 地域活性化のためのイベントの支援

八十ハヶ所お大師まいり支援

秋穂地域の歴史・風土であるお大師まいりの伝統行事を継続し、且つ多くのかたに訪れていただけるように、パンフレットを作成し、仮設トイレの増設をしました。

情報の発信により秋穂を訪れるかたも増えており、ホームページへの掲載や情報紙を通じてPRしていきたいと思います。



スポーツ推進・行事支援

秋穂スポーツ交流フェスタ・市民体育大会・浜村杯秋穂ロードレースの支援を通して活力ある地域づくりをすすめます。

浜村杯では、豚汁を提供し大会を盛り上げました。

今後も、スポーツを広く浸透させ、地域の元気力の増加や活性化をはかりたいです。



■ 地域活性化のためのイベントの支援

秋穂太鼓支援

チャレンジ助成事業で採決し、新たなる伝統づくりに挑戦する秋穂太鼓は、13台の和太鼓からスタートしました。当面は秋穂中学校での活動になりますが、今後地域全体の取り組みに広げていく予定です。秋穂太鼓の成長とともに、他地域との交流も展開できるよう支援していきます。



環境美化運動

草山公園の資源価値を高めるため、地域環境美化活動を行いました。草山の整備をすすめることで地域内外から多くの方に訪れていただくことにより、地域の活性化が期待できます。



阿知須地域づくり協議会

★活動の概要

「地域づくり計画」に基づき各種事業、活動に取り組み、地域の課題やニーズをふまえ新たな取り組みも協議、検討を行っています。

★交付金額

10,855,610 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	9,363人
世帯数	3,698世帯
地域の キャッチフレーズ	「心豊かな元気で住み よい阿知須づくり」

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地域振興

✚ 情報発信事業

阿知須地域づくり協議会だよりを発行しています。地域づくりの活動内容(事業等)への理解、協力を得ることができ、地域の幅広い年齢層に情報を発信することができました。また、ホームページを立ち上げ、各自治会からも情報を提供できるようにしました。



■ 地域福祉

✚ 子育て支援事業

安心して子育てできる環境と子育て支援、地域ネットワークの構築を目的とし子育て家庭の交流の場づくりを支援しました。

✚ 健康づくり事業

ウォーキングでの健康長寿を目標に、「春の桜花ウォーキング」「秋のあじす三社めぐりウォーク」を開催。多数の参加者でウォーキングを楽しみました。



■ 環境づくり

✚ 環境美化推進事業

住みよい美しいまちづくりを目指して環境美化活動を実施しました。

全国植樹祭に向けて



「プランター花づくり運動」と「地域クリーンアップ」を実施しました。



井関川清掃



「海の日」に千鳥ヶ浜海岸清掃を実施



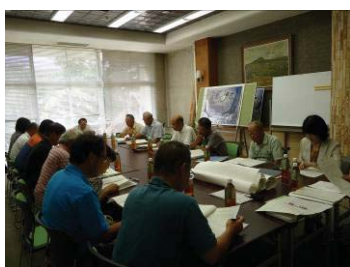
■ 安心安全

地域防災意識向上事業

阿知須地域では、地域における防災活動の重要性、自主防災の必要性を地域住民が共有し、活動できるよう阿知須防災協議会を設置しました。事業の一環として、阿知須地域内に海拔表示板を設置する諸準備と地域防災リーダー養成講座「防災ワークショップ」を3回シリーズで開催しました。



海拔表示



阿知須防災協議会会議

防災ワークショップ3回シリーズ

「地域防災の進め方・考え方」を学びました。

自主防災組織の立ち上げを期待します。



防災図上演習DIGに挑戦されました。



■ 地域創出

阿知須発信イベント支援事業

江戸時代から、廻船のまちとして栄えた居蔵づくりの町並みに、手作りのつるし飾り「ひなもん」を飾り、阿知須の元気を発信しました。



明治から続く伝統行事「あじす浦まつり」に協賛しています。

同日開催の花火大会へも協賛しています。



文化を守り継承発展させる事業

玉川地区鬨鶏踊り

江戸時代から続いている伝統芸能です。

地域の子供たちに継承しています。



小古郷代神楽舞

伝統ある小古郷代神楽舞。若者の継承育成を推進しています。

世界スカウトジャンボリーでの披露が期待できます。

